

入試年度	2019年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2019年2月19日
課程	博士前期課程	研究科	経営学研究科	専攻・コース	経営学専攻
入試方式	一般入学試験 外国人留学生入学試験	試験科目	専門科目（経済学）		

解答又は解答例及び出題意図

**【解答例（採点時の観点）】**

問1

- (1) 自然独占の成立理由、同市場構造における規制の目的や手段について、標準的なミクロ経済学に基づく正確な理解を示し、かつ、論理的に詳述できたものを正答とする。
- (2) 関税率の変化が財の価格、ひいては貿易取引量に及ぼす影響について、標準的なミクロ経済学に基づく正確な理解を示し、かつ、論理的に詳述できたものを正答とする。

問2

- (1) トービンの  $q$  の定義と投資決定の関係を正確に詳述できたものを正答とする。
- (2) 購買力平価の定義と為替レートとの関係を正確に詳述できたものを正答とする。
- (3) 実質国内総生産と実質国民総所得の定義を正確に詳述できたものを正答とする。
- (4) 量的・質的金融緩和の定義と雇用の関係を正確に詳述できたものを正答とする。

**【出題の意図】**

学士水準に相当する経済学の基礎知識および研究能力を記述式筆記試験により評価するため、標準的なミクロ経済学およびマクロ経済学の主要テーマからバランス良く出題することを意図している。ミクロ経済学については、問1(1)で産業組織論、問1(2)で国際貿易論からの出題としている。マクロ経済学については、問2(1)で投資理論、問2(2)で国際金融、問2(3)で国民経済計算、問2(4)で金融政策からの出題としている。問1は2問のうち1問、問2は4問のうち2問を選択して解答する形式としている。

合否判定の方法及び基準

入学試験は、経営学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施している。

合否判定については、本研究科のアドミッション・ポリシーを満たしているかを総合的な視点により判断している。